

2011年(平成23年)4月28日(木曜日)

命を守るための注意する点 文部科学省資料、柴山教授の話をもとに作成

●地震前に備えておくこと

- ▶一軒家では2階に寝る
倒壊時には1階がつぶれやすい
- ▶本棚などの重い家具は1階に移す
2階が重いほど家屋は倒壊しやすい
- ▶重い家具を固定する
しっかり固定した家具の近くは、比較的安全

●揺れ始めたときにとる行動

- ▶頭を守る
- ▶急いで外に出ない
耐震基準を満たした建物では、中にいた方が安全。室内外とも割れたガラスが散乱する危険がある
- ▶机が近くにある場合は、下に隠れる
- ▶無理に火を消そうとしない
台所は食器棚や鍋類など危険なものが多い。火はほとんどの場合、自動で消える

●津波から逃れる方法

- ▶今回津波が来なかった場所でも、今後津波が来る可能性が十分あると認識する
- ▶自宅近くの高台や、高い鉄筋コンクリート造の建物の位置を調べる
- ▶避難ルートを事前に確認しておく
深夜真っ暗な中でも逃げられるように
- ▶揺れが小さくても、津波警報が出た場合は必ず避難する
震源が遠い地震は揺れは小さいが、津波の勢いは衰えない
- ▶川に沿って逃げない。海の方角にも逃げない
- ▶事前に、「家族が近くにいない場合、捜さずに自分だけ逃げる」と家族の間で約束しておく

万が一に備え 日常から習慣

予知が現実的とは言えず、長期評価も完全ではないとなると、自ら備えることが身を守る最大の方法だ。

被災地では、防波堤などが破壊されて無防備な状態になっている。早稲田大の柴山知也教授(津波工学)

は「次に来る津波の規模が小さくても、相当の犠牲者が出る恐れがある」と言う。

被災地外でも備えを軽視してはならない。東京大学地震研究所の大木聖子助教(災害情報学)は「地震が非常に起きやすくなっているという事実を受け入れるしかない。命を守るための行動を、無意識にとれるような習慣を身につけてほしい」と呼びかけている。